

# 森林やまがた

No.158

2015.7

フォレスト  
サポーターズ



美しい森林づくり推進国民運動

山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



## 目次

「やまがた森の感謝祭2015」を開催……………	2
山形県森林・林業功労者のご紹介……………	4
荒廃森林緊急整備事業について……………	5
平成27年度山形の家づくり支援事業について…	6
平成27年度第1回やまがた緑県民会議開催……	7
やまがた緑環境税制度の評価・検証について…	7
みどりのページ	
緑の募金出発式が開催されました……………	8
平成27年度緑化推進事業助成金の 交付決定について……………	9
「株式会社シェルター」の取組み……………	10

## 普及情報

野外フィールドにおける「危険な生物」……………	11
森の人紹介	
齊藤耕司さん・遠田勝一さん……………	12
「2015全国山菜サミットin大江」の開催……………	13
山地災害の発生状況及び今後に向けて……………	14
「おきたま森の起業塾」やっています！……………	15
多様な主体の連携による松くい虫被害対策……………	16
山形県の古木・名木、公共木造施設……………	17
丸太価格・製材品価格の推移……………	18

# 「やまがた森の感謝祭2015」を開催

山形県では、六月の第一土曜日を「やまがた森の日」と定め「やまがた森の感謝祭」を開催しており、六月六日に金山町の「山形県遊学の森」で開催しました。

今年の感謝祭は、「ポスト育樹祭」として全国育樹祭で高まった森づくりの機運を県民参加の森づくりにつなげ、さらに推進させるイベントとして、また、来年秋に開催される「第三十六回全国豊かな海づくり大会」の記念行事にも位置付け、「森から海へ 人から人へ 恵みのリレー」をテーマに開催しました。

小雨のなかで始まったオープニングアトラクションは、地元認定子ども園「めぐたま」の園児による元気な歌が披露されました。園児たちの元気な歌声が会場に響き渡ると、しだいに雨もあがってきました。

式典では、主催者を代表して、吉村知事が「この感謝祭を契機に、森を守り、育て、暮らしに活かしながら、次の世代につなげる『みどりの循環県民活動』の輪が大きく広がることを祈念します」と挨拶しました。

森林・林業功労者感謝状の贈呈は、森林・林業の振興に貢献された、真室川町の栗田猛士氏、鶴岡市の本間文夫氏に、知事感謝状が贈られました。

また、山形県CO2森林吸収量等評価認証制度による認証書の授与では、木質バイオマスの利用部門で十六団体、森づくり活動部門で二十一団体が認証され、代表して金山町森林組合と山形ゼロックス株式会社に認証書が贈られました。

森づくりリレー旗の交付は、吉村知事から金山町緑の少年団に手渡さ



緑の少年団に託されたリレー旗

れ、今年度の森づくりリレーがスタートしました。  
森、川、海をつなぐ生命のリレーでは、新庄市のパリス保育園の園児が自分たちで育てたコナラの苗木を吉村知事に手渡しました。吉村知事からは、酒田海洋少年団と金山町緑の少年団に式典終了後に併催行事で放流されるサクラマスの稚魚が手渡されました。



パリス保育園児が自分たちで育てたコナラの苗木を吉村知事に手渡し

また、「第三十六回全国豊かな海づくり大会」キャラクターがお披露目されました。きてけるくんファミリーのお父さん「きてけるくん」、お母さんの「いくちゃん」と一緒にキャラクターが登場し、吉村知事がの

ぼりを掲げ「もっけだのん」と愛称を発表しました。愛称は、県内外から延べ一四八一点の応募があり、村山市立大久保小学校四年、日塔花さんが名付けてくれたものです。



全国豊かな海づくり大会  
きてけるくんファミリー やまがた  
(左より)もっけだのん 吉村知事 きてけるくん いくちゃん

式典の最後には吉村知事と「もっけだのん」、「金山町緑の少年団」、「酒田海洋少年団」の子供たちや森林ボランティアリーダーとが一緒に、「豊かな森は、豊かな海をつくりま

用』に取組み、『やまがた森林ノミクス』を推進していきます」と「みどりの循環利用推進宣言」を力強く行いました。



引き続き、パリス保育園児と吉村知事が「コナラ」、主催者や来賓、受賞者、金山町緑の少年団が「ソメイヨシノ」の記念植樹を行いました。森づくり活動では、緑の少年団や海洋少年団が、広葉樹の施肥、一般参加者がスギの枝打ちを行いました。また、自然観察では、ビオトープ観察を行いました。

会場内の展示・体験コーナーでは、「やまがた緑環境税」を活用した森林整備のパネル、全国育樹祭のPR

パネル、第三十六回全国豊かな海づくり大会PRパネル、絆の森協定企業による森づくり活動紹介パネルの展示のほか、木工クラフトやネーチャールゲームなど様々な催しが行われました。どんぐりの苗木を家庭で育て森にかえす「森のホームステイ」では、緑の少年団、海洋少年団が竹ポットに苗木を植えました。



併催行事として行われた第三十六回全国豊かな海づくり大会記念リリース放流では、吉村知事、鈴木金山町長、野川県議会議長、柴田金山町議会議長、酒田海洋少年団、金山町緑の少年団が、サクラマスの稚魚約二千匹を金山川に放流しました。



雨の中ではじまった今年の感謝祭でしたが、約千二百人の方々から参加いただき、金山町の森の中で楽しい一日を過ごされたことと思います。

**山形トヨペット株式会社から  
寄贈していただきました**

「やまがた森の感謝祭」の開催に先立ち、六月二日に山形トヨペット株式会社の鈴木寿昭社長と緑の大使であるミス・インターナショナル日本代表の中川愛理沙さんが来庁され、ソメイヨシノとヤマブキの苗木合わせ

せて五十本と森づくり活動で使用する児童用ヘルメット五十個を、知事に贈呈していただきました。贈られた苗木は、感謝祭等で植樹しました。また、児童用ヘルメットは、各地で行われる森づくり活動で活用させていただきます。

〔県みどり自然課〕



山形トヨペット株式会社鈴木寿昭社長と  
ミス・インターナショナル日本代表

中川愛理沙さん



# 山形県森林・林業功労者のご紹介

## ◆はじめに

森林・林業功労者につきましては、毎年、森林・林業の振興及び緑化推進等に顕著な功績があつた個人や団体を対象に、

- 一 「森林づくり」部門
  - 二 「森林保護保全」部門
  - 三 「山村・林業の振興」部門
  - 四 「木材・林産の振興」部門
  - 五 「緑化の推進」部門
  - 六 「県民参加の森づくり」部門
- の六部門を設け、表彰しているものです。

今年度は、二個人が選出され、六月六日(土)山形県遊学の森(金山町)で開催された「森の感謝祭2015」において、吉村美栄子山形県知事から感謝状が贈呈されました。選出された方と、功績の概要は次のとおりです。

### ◆「山村・林業の振興」部門

栗田猛士氏

昭和四十八年から真室川町森林組合の役員(理事、監事、代表監事)を務められ、組合の製材所や特用林産加工施設の整備を積極的に進め、



「山村・林業の振興」部門  
栗田猛士氏

町の木材産業の発展や特用林産物の生産振興などに大きく寄与されました。

また、自身が所有するスギ林十七ヘクタールで植林から保育、伐採まで一貫した経営を実践されています。昭和五十九年に林業士として認定を受け、平成二十七年四月に高齢を理由に辞任するまでの三十一年間の永きにわたり、林業後継者の育成と林業技術の普及に尽力されました。



「山村・林業の振興」部門  
本間文夫氏

### ◆「山村・林業の振興」部門

本間文夫氏

鶴岡市内の二十の生産森林組合で構成する鶴岡市生産森林組合連絡協議会の会長として、市町村合併(平成十七年十月一日)以降における各生産組合間の情報交換や年二回の研修活動等を積極的に開催し、地域林業の振興に大きく寄与されました。

平成十六年からは、五十川生産森林組合の組合長として、コンテナ苗を活用した植栽に取り組む等、新たな森林整備を積極的に推進し、山村における林業振興の模範とされています。

また、平成二十六年 度から、温海町森林組合の筆頭理事に就任され、集約化施策による森林生産力の増進と木材のフル生産・フル活用を推進しています。



### ◆おわりに

受賞された方の、今後のますますのご活躍をご期待申し上げます。

(県林業振興課)

# やまがた緑環境税事業 荒廃森林緊急整備事業について

県では、平成十九年度から「やまがた緑環境税」を活用し、県民生活に大きな影響を及ぼす恐れのある管理放棄された荒廃森林を「荒廃森林緊急整備事業」として整備しており、今年で九年目をむかえます。

このたび、平成二十六年年度の事業実績がまとまりましたので、平成二十七年年度の事業計画とあわせて紹介します。

## ◆森林整備事業の内容

森林整備事業としては、下段参照のとおり『針広混交林整備』、『長期育成林整備』、『里山林整備』の三タイプを実施しています。

平成二十三年度に事業内容の見直しを行い、平成二十四年度から針広混交林整備及び長期育成林整備の一部に国庫補助金の活用を図ることとし、森林組合等が事業主体となり実施しています。また、里山林整備に市町村が事業主体となる森林景観整備を追加し、幹線道路沿いなどの景観が悪化している森林の解消や、人と動物の共存に向けた緩衝林帯の整備を実施しています。

## ◆平成二十六年年度

### 整備面積と進捗状況

平成二十六年度は、一五二〇畧の荒廃森林を整備し、全体計画に対する進捗率は八十四%となっています。

区分	事業主体	面積(ha)
針広混交林整備	県	26.0
	森林組合	432.8
	小計	445.1
長期育成林整備	森林組合	445.1
	小計	877.9
	県	530.5
里山林整備	市町村	86.0
	小計	616.5
	計	1,520.4

全体計画(ha)	H19~H26整備面積(ha)	進捗率(%)
11,600	9,694	84%

## ◆平成二十七年年度整備計画面積

平成二十七年度は、一三〇〇畧の荒廃森林を整備する計画です。全体計画に対する進捗率は、九十二%となります。また、新たに「森林資源再生事業」として、再造林に対する支援も行います。

今後とも、「やまがた緑環境税」を財源とした荒廃森林の整備について周知を図り、着実に進めてまいりますので、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

〔県林業振興課〕

## 荒廃森林緊急整備事業 (H27事業費 664,789千円 内やまがた緑環境税 450,227千円)

### ■水源かん養など公益的機能の高い森林を育成（針広混交林整備）

事業費 50ha 18,301千円

(緑環境税 13,717千円、国庫補助金：4,584千円)

スギ人工林に広葉樹を導入するための強度の間伐及びこれに必要な森林作業道の設置



### 目指すべき森林整備

水源かん養機能や土砂流出防止機能の維持増進のための針広混交林の整備



### ■スギ人工林の再生を起点とした環境に配慮した森林経営の展開（長期育成林整備）

事業費 840ha 463,565千円

(緑環境税 253,587千円、国庫補助金等：209,978千円)

間伐及びこれに必要な森林作業道の設置など、森林組合等が森林所有者に代わって施業を一元管理し、森林の公益的機能を持続的に発揮する仕組みを構築



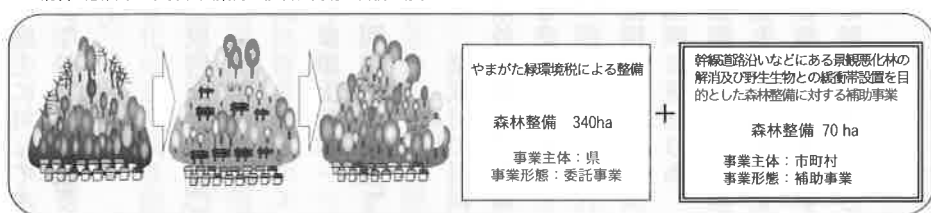
荒廃森林の間伐による、健全な森林経営の推進



### ■病害虫などで荒廃した里山林の再生（里山林整備）

事業費 410ha 182,923千円 (緑環境税 182,923千円)

病害虫被害木の伐採、広葉樹の植栽、簡易土留柵の設置など



病害虫などで荒廃した里山林の整備と人と動物との共存林の整備の推進



# 平成二十七年産山形の家づくり支援事業について

県では、住宅建築分野における県産木材の利用拡大のため、山形の家づくり支援事業を実施しています。

当事業は、以下の三つの事業に区分し展開していますので、事業ごとにご紹介します。

## 一 『県産認証材「やまがたの木」普及・利用促進事業』

### 【事業概要】

県産木材を使用して住宅を建築する方に補助金を交付します。

なお、当事業における県産木材とは、やまがた県産木材利用センターが実施する『「やまがたの木」認証制度』により産地証明された木材又は認証された合板及び集成材となります。

### 【補助金の交付先】

県内に住宅を新築する方

### 【補助条件】

次のすべてに該当する住宅です。

- ・自ら居住するため、県内に新築する住宅（分譲住宅、中古住宅の購入及びリフォームを除く）
- ・住宅部材（延べ床面積一平方メートル

トル当たり〇・一立方メートル換算）の八〇%以上に県産木材を使用した住宅

なお、算定できる県産木材は構造材に限らず、野地板や造作材を含むものとします。

・平成二十八年三月末日までに実績報告書を提出できること

### 【補助金の額】

定額十五万円（使用率一〇〇%の場合は定額二〇万円）



県産認証材を80%以上使用した家の一例

## 二 『顔の見えるやまがたの木で家づくり推進事業』

### 【事業概要】

地域の木材を地域で利用する取組みを実現していくため、県産木材を使用した住宅の普及啓発活動等を実施する団体に補助金を交付します。

### 【補助金の交付先】

県内に組織されている家づくりネットワーク団体（今年度は七団体）

### 【活動内容】

森林所有者・製材業者・木材販売業者・大工・工務店・建築士といった川上から川下までの住宅建築関連業界が一体となって、地域ごとにネ



ネットワーク団体主催の家づくりセミナーの様子

ットワークを組み、施主に対して木の使い方やデザインなどに関する多様な提案を行います。

### 【補助率】

事業費の二分の一以内（上限五〇万円）

## 三 『県産認証材「やまがたの木」利用拡大事業』

### 【事業概要】

県内の製材工場が、集成材の材料となるラミナ材を県外の集成材工場に出荷する取組みを支援します。

### 【補助金の交付先】

やまがた県産木材利用センターが実施する県産木材「やまがたの木」認証制度認定製材工場等

なお、ラミナ材を生産及び出荷する認定製材工場等と集成材を販売する認定製材工場等は同一であることとします。

### 【補助条件】

・ラミナ材生産計画を作成して、ラミナ材を製材し、県外の集成材工場に出荷すること

・県内で「やまがた県産材集成材」として流通することが確実な製品

### 【補助金の額】

一立方メートル当たり四七〇〇円  
〔県林業振興課〕

# 平成二十七年第一回やまがた緑県民会議開催

## ◆はじめに

やまがた緑環境税を活用した事業の評価と検証を行う「やまがた緑県民会議」の今年度第一回会議を六月四日（木）、山形市の山形県私学会館で開催しました。

## ◆新委員の委嘱について

委員改選により、新任の委員十名を含む次の十四名の委員に就任していただくことになり、委嘱状が交付されました。議長には、委員の互選により小山浩正氏に就任いただきました。

阿部多喜子（金山町）、安部雄祐（山形市）、遠藤政子（鶴岡市）、小嶋可那子（新庄市）、小原芳子（新庄市）、金澤裕子（山形市）、栗原穂子（鶴岡市）、後藤完司（山形市）、小松伸也（真室川町）、小山浩正（鶴岡市）、櫻井洋子（山形市）、高谷時子（村山市）、堀井幹雄（山形市）、渡邊拓磨（小国町）

## ◆二十六年事業実績及び

## 二十七年事業計画等について

平成二十六年度やまがた緑環境税活用事業の実績及び平成二十七年

やまがた緑環境税活用事業計画のほか、今年度から始まる、やまがた緑環境税制度の評価・検証について協議いただきました。

二十六年度実績総額は六億五千九百万円（税分）。荒廃森林緊急整備事業については計画どおり千五百二十haを整備。NPOなどを支援する公募事業では百十一事業、市町村交付金事業では百七十四事業に対し助成。

県民参加の森林づくり人数は九万四千五百四十四人となり、目標九万四千人を上回りました。



第1回やまがた緑県民会議の様相



小山議長

また、二十七年計画総額は六億七千九百万円（税分）。新たに、主伐後の再造林を行う仕組みの構築を図る「森林資源再生事業」を実施するほか、森林資源を森の恵み、森のエネルギーとして暮らしに活かす県民活動を支援する「みどりの循環県民活動推進事業」等を実施します。

## ◆おわりに

委員の方々からは「イベント等で緑環境税が活用されていることをもっとPRして欲しい」などのご意見をいただきました。県では、今後とも本会議において税事業の効果についてご意見ご提言をいただくとともに、県民の皆さんに税事業の理解を深めていただけるよう各種施策を展開していきます。〔県みどり自然課〕

## やまがた緑環境税制度の評価・検証について

やまがた緑環境税条例（平成十九年四月一日施行）では、施行後五年を目途に、制度全般にわたる点検・見直しを行うことが附則により定められています。

第一回目の点検・見直しは、平成二二〜二三年度の二カ年にわたって行われ、今回は第二回目の点検・見直しとなります。

県では、庁内に外部委員を迎えた「やまがた緑環境税活用事業評価・検証プロジェクトチーム」を設置し、現状の把握と成果及び課題の整理を行うとともに各種アンケート調査や意見交換会等を行い、県民の意見等を踏まえながら検討結果を取りまとめ、その結果を「やまがた緑県民会議」に諮りながら評価・検証を進めてまいります。

今年度は、「評価・検証プロジェクトチーム会議」、「やまがた緑県民会議」を年四回開催して評価・検証作業を進め、来年三月末を目途に中間報告書を取りまとめる予定としております。〔県みどり自然課〕



みどりのページ

緑の募金出発式が  
開催されました

◆期 日 四月二十三日(木)  
◆場 所 文翔館前広場

緑の募金街頭キャンペーン出発式が今年も文翔館前広場で開催され、緑の募金に功績のあった企業・団体の皆様に感謝状の贈呈が行われました。この日の贈呈式には六団体が出席されましたが、今年はこの六団体を含め十六団体に感謝状が贈られました。これは、緑化の推進や森林の整備などに役立てられる緑の募金に対して、企業や団体からの関心が高まり、長年にわたって緑の募金にご協力をいただいている成果の表れと感じております。これからも企業や団体の皆様方からのご協力をお願い申し上げます。



感謝状贈呈式の様子

◆緑の募金感謝状贈呈団体(順不同)

(株)ウンノハウス、エムテックスマツムラ(株)、東北パイオニア(株)、(株)マルコウ環境、水澤化学工業(株)水沢工場、東北エプソン(株)、東北興産(株)、山形木造住宅プレカットシステム、(株)トーホー、(株)ライナー、(公財)やまがた健康推進機構(株)ジャパンビバレッジ東北山形営業所、庄内余目病院、NECパーソナルコンピュータ(株)、(株)モンテディオ山形、(株)キリウ山形



保育園児による緑のメッセージ

贈呈式の後には、近隣の保育園児による緑のメッセージの読み上げや、保育園児が育てたどんぐりの苗木の贈呈、西洋シヤクナゲのプレゼント

などが行われました。

また、出発式の後には市内六ヶ所で行われた街頭募金では多くの善意が寄せられ、平成二十七年年度の緑の募金活動は順調なスタートを切ることが出来ました。

◆街頭募金に協力いただいた団体

山形県緑を育てる女性の会  
山形グリーンライフ女性の会  
成澤グリーンフィールド協力隊  
東海大学山形高等学校(順不同)

◆街頭での緑の募金額  
五万三千二百七十四円



募金してくれて、ありがとう♪

山形県みどり推進機構では、これからも緑の募金の普及啓発に努め、県内の緑化の推進や森林の整備、森林環境教育など、さまざまな緑化活動に役立てて参ります。

### 「緑の募金」にご協力いただいた企業・団体のみなさま (H27. 4. 1~5. 31)

(山形県みどり推進機構取扱い分)

青山建設グループ、(株)アライドテック、M木工、(有)遠田林産、岡崎医療(株)、(株)グリーンシステム、蔵王食品(株)、佐久間会計事務所、(株)佐藤工務、(株)佐藤防災、JA共済連山形、JA全農山形、新庄信用金庫、(株)ダイユー、(株)テトラス、天童東ロータリークラブ、東北電力(株)山形支店、(株)戸沢村産業振興公社、中山ロータリークラブ、西置賜ふるさと森林組合、日本自動車販売協会連合会山形県支部、農林中央金庫山形支店、(株)フィデア総合研究所、(有)フジハラ自動車、村山生コン(株)、(株)山形環境荒正、(株)山形環境エンジニアリング、山形県医師会、山形県観光物産協会、山形県企業振興公社、山形県後期高齢者医療広域連合、山形県国際交流協会、山形県産業技術振興機構、山形県社会福祉協議会、山形県住宅供給公社、山形県商工会連合会、山形県私立学校総連合会、山形県信用保証協会、山形県中小企業団体中央会、山形県町村会、山形航空電子(株)、(株)山形城南木材市場、山形農業協同組合、(株)山形メタル、(株)ヤマトテック、(株)渡会電気土木

(以上、敬称略・五十音順)

ご協力ありがとうございました。





みどりのページ

(公財) 山形県みどり推進機構

今年度の緑化推進事業助成金の交付団体は、四月二十七日に開催された当財団助成事業選考委員会の審査を経て決定しました。

今年度も県内各地のボランティア団体等から多数の応募がありました。長年にわたり緑化推進に貢献してきた団体から、新たに事業をスタートさせる団体まで、それぞれの地域に根差した活動を通じて、緑化の推進だけに止まらず、地域コミュニティの活性化に繋がることも期待されます。

事業区分ごとの採択件数は、「都市・農山村の環境緑化整備事業」が二十件、「都市・農山村の環境緑化維持管理事業」が二十五件、「県土緑化の普及啓発調査研究事業」が三件、「森林環境教育事業」が四件でした。

また、緑のまちづくり支援モデル事業として、「地域の里山再生支援モデル事業」の一件、「緑の地域づくりモデル事業」の三件を採択しました。交付団体一覧は下表のとおりです。

**平成二十七年緑化推進事業  
助成金の交付決定について**

平成27年度 公益財団法人山形県みどり推進機構 緑化推進事業交付決定一覧表

事業項目	所在地	申請者名	助成額(円)	事業項目	所在地	申請者名	助成額(円)
都市・農山村の環境緑化整備事業	飯豊町	上郷地区緑化推進協議会	300,000	都市・農山村の環境緑化維持管理事業	米沢市	米沢市立第六中学校	100,000
	天童市	上貫津町内会	200,000		山形市	山形県緑を育てる女性の会	100,000
	西川町	西川町梅沢町内会会館運営委員会	120,000		山形市	館山会	67,000
	中山町	天盃泉利用組合	300,000		中山町	中山ロータリークラブ	100,000
	南陽市	岩部山三十三観音保存会	188,000		寒河江市	慈恩寺共有山林組合	100,000
	長井市	花と緑・環境の会	300,000		鶴岡市	山五十川自治会	100,000
	白鷹町	杉沢観音の里づくり	122,000		山辺町	ヒメサユリを植える会	100,000
	小国町	舟渡公民館	244,000		長井市	岡鼠原のみ会	55,000
	尾花沢市	二ツ森観光開発促進委員会	290,000		山辺町	大蕨棚田さくら公園設置管理運営委員会	100,000
	鶴岡市	小岩川自治会	300,000		中山町	月山櫻遊会	100,000
	鶴岡市	花咲く里山朝日支部委員会	300,000		金山町	楯山を愛する会	97,000
	鶴岡市	花咲く里山温海支部委員会	300,000		鶴岡市	鶴岡市温海第3地区自治会	100,000
	庄内町	あまるめさくら咲多会	300,000		尾花沢市	宮沢翁塾	60,000
	金山町	上台地区	230,000		金山町	有屋地域公民館連絡協議会	100,000
	西川町	西川のまちづくり応援団	300,000		金山町	金山町羽場地区自治会	95,000
	寒河江市	清助新田振興会	280,000		金山町	羽場ボランティアグループ	85,000
	小国町	上大石沢地区会	256,000		金山町	安沢地区	100,000
	金山町	なかだ倶楽部	300,000		天童市	立谷川の花さかじいさん	100,000
	米沢市	ネイチャーフロント米沢	63,000		天童市	津山の自然を守る会	100,000
	川西町	里山を楽しむ会	300,000		金山町	三枝地区	100,000
森林環境教育事業	金山町	遊学の森案内人会	100,000	金山町	飛森地区	100,000	
	山形市	山形県林業士会	100,000	西川町	石田町内会	65,000	
	米沢市	三沢地区学校林整備委員会	100,000	飯豊町	東山友志会	100,000	
	鶴岡市	NPO法人公益のふるさと創り鶴岡	100,000	米沢市	ボランティア、エビガサワ	100,000	
県土緑化普及啓発事業	酒田市	万里の松原に親しむ会	100,000	長井市	長井市舟場地区	100,000	
	酒田市	一般社団法人庄内森林保全協会	95,000				
	山形市	山形グリーンライフ女性の会	100,000				

平成27年度 公益財団法人山形県みどり推進機構 緑のまちづくり支援モデル事業交付決定一覧表

事業項目	所在地	申請者名	事業概要	助成額(円)
地域の里山再生支援モデル事業	最上町	緑を愛する会	育樹や炭焼き体験等を通じた里山文化の交流拠点整備	700,000
緑の地域づくりモデル事業	飯豊町	手ノ子地区協議会	荒廃採草地への植樹による「里山の森」の再生	1,000,000
	尾花沢市	福原ふるさと塾	「田んぼアート」の制作を通じた活力ある地域づくり	600,000
	白鷹町	羽黒の森を守る会	樹齢400年の老松の保護を通じた景観保全と文化交流	560,000

# 「株式会社シエルター」の取組み

## ◆はじめに

「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」(平成二十二年法律第三十六号)の施行以来、全国的に公共建築物の木造化、木質化が進んでいます。この度、山形県森林整備促進・林業等再生事業を活用して、大規模木造建築の推進に取組む(株)シエルターについて、御紹介します。

## ◆三次元プレカット加工機の導入

(株)シエルターは、「都市に森をつくる」の考えのもと、県産木材等を利用した大規模木造建築や木造耐火建築に取組んでいます。

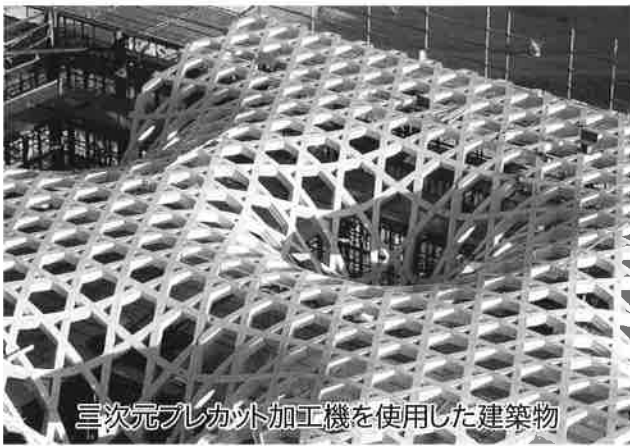
平成二十六年度には、スイス製三次元プレカット加工機を導入しています。

この機械は、小口からの加工が容易にできるため、自社で開発した耐火構造部材のプレカットに適しています。

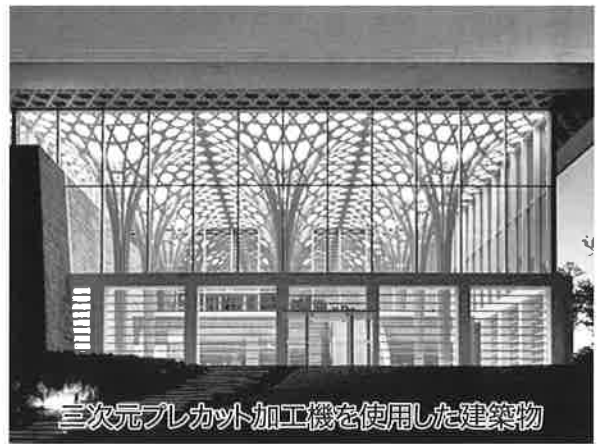
また、複雑な曲線・曲面の加工能力があるため、新たな造形美を有する木造の建築が可能となります。そのため、これまでの直線的な製品

に加え、複雑な曲線・曲面を持つ製品を使用した「斬新なデザインの木造建築物」の建築により、今まで以上に木材が活用されると考えられます。

木造構造物の需要が多いヨーロッパにおいては、飛躍的に木造建築物を増加させる契機となった機械であり、日本においても、木造建築物の新たな需要を創出できるものと期待しています。



三次元プレカット加工機を使用した建築物



三次元プレカット加工機を使用した建築物

## ◆新製品性能調査(耐火試験)

(株)シエルターは、木をあらわにした、温もりと癒しを感じられる木造建築物を防火地域等に建てるため、木製耐火建築部材の開発について、長年取組んでいるところです。

平成二十七年年度に実施する新製品性能調査(耐火試験)は、新たに開発した石膏ボードの枚数を減らすなどの工夫で、より低コストで、施工性の良い製品について、国土交通省の大臣認定を取得するものです。

この認定の取得により、防火地域等にこれまでより安価で、高層の木造建築物を建てるのが可能になります。

## 木構造耐火部材「COOL WOOD」

2時間耐火試験に合格 木造14階建ても可能



## ◆おわりに

村山総合支庁は、県産材等の新たな需要の創出及び多くのニーズを叶える事業活動について、今後も幅広く支援していくとともに、これらの木材を活用する公共木造建築物の建設促進についても、積極的に取組んでまいります。

〔村山総合支庁森林整備課〕

## 普及情報

# 野外フィールドにおける「危険な生物」

## 被害と対処法

朝日少年自然の家からの依頼を受け、森林研究

研修センターが山形県青少年施設協議会（各少年自然の家等で構成される協議会）の研修会で行った標記講義の内容を紹介します。

講義で取り上げた「危険な生物」

は左記のとおりです。今回は、この中から研修会を行うきっかけになったドクガによる被害と応急処置に必要な救急用具について解説します。

### 【ドクガによる被害】

○特徴：体長は幼虫が4cm、成虫が2cm程度。体色は橙〜黒。幼虫は体全体、成虫は尾端に毒針毛を持つ。  
○生態：成虫は年一回（六〜七月頃）現れて産卵、間もなく幼虫が孵化。越冬し、春に活動を再開。サナギ、

繭から成虫となる。

○症状：毒針毛に触れるとピリピリした感じとともに強い痒みが生じる。患部は炎症を起こし、発疹が広がり、ひどいときは全身症状となる。幼虫による被害は五〜六月の昼間、成虫は六〜七月の夜間に多い。

○予防法：触れないのが最善。

※毒針毛は脱皮した抜け殻やサナギ、卵塊にもついているので要注意！

○応急処置：①患部を確認。②流水で洗い流す。③ガムテープ等を何度も押し当てて毒針毛を取り除く。④取れない場合はピンセットを使う。⑤抗ヒスタミン剤を塗り病院へ行く。

### 【応急処置に必要な救急用具】

ドクガに限らず危険な生物による被害に備え、野外で活動する際には救急用具を携行することが大切です。当センターが準備している救急バッグのポイントは、次のとおりです。

○バッグ：箱型のものより、タスキ掛けできるもののほうが両手の自由が利いて邪魔にならない。

○水：五〇〇mlのペットボトルが一本あれば、水道等がない場所でも傷口を洗い流すことができる。

○三角巾：止血や毒のまわりを遅らせるためのヒモとしても使える。

○包帯：最近では粘着包帯というのが市販されている。ドクガ類の毛を取り除くこともできる。

○その他：クマ対策としてクマ鈴やラジオ、クマハギ被害や目撃情報がある場所に立ち入らなければならぬ場合にはクマ撃退スプレーの携行も検討する。また、蜂アレルギーによりエピペンを処方されている方は忘れずに携行する。なお、ポイズンリムーバーについても同様に、いざというときに備えて使用方法を事前に確認し、練習しておくことでスムーズな応急処置ができるようにしておきたい。



これから本格的に暑い季節を迎えますが、①長袖、長ズボン、長靴を着用し素肌を露出させない。②防虫スプレー等を散布する。③不用意に危険な生物に近づかない。といった基本的な事項に注意するだけで被害を軽減することができます。

以上、過剰に恐れる必要はありませんが危険な生物について理解を深め、適切な準備をしたうえで、森林での活動を行ってください。

〔森林研究研修センター〕

### 紹介した危険生物

- ① ツキノワグマ
- ② ニホンマムシ
- ③ ヤマカガシ
- ④ ヤマビル
- ⑤ ツツガムシ
- ⑥ ドクガ
- ⑦ マイマイガ
- ⑧ オオスズメバチ
- ⑨ スギ
- ⑩ ウルシ

・危険生物：8種 ・危険植物：2種



ドクガの幼虫



ドクガの成虫

## 森の人紹介

### 第三十八回全国育樹祭

#### 山形県緑化等功労者

林業士 齊藤 耕司さん



齊藤さんは、昭和五十七年度に山形県林業士（第三期生）に認定されました。

平成四年から森林組合の監事、平成十年からは森林組合の理事を務めながら、地域の作業班に所属し、森林組合の運営だけでなく、地域の森林整備の推進及び林業の振興に貢献されてきました。

平成二十六年度には、長年の功績が認められ、「第三十八回全国育樹祭山形県緑化等功労者感謝状」を贈呈されました。

今も、川西町町有林経営計画協議会の会長、山形県林業士会の監事、山形県林業士会置賜支部長、森林組合の理事などを務められ、県や町主催の事業への積極的な参加や森林整備の指導などに活躍されています。

さて、川西町東沢地区では、子供たちのお互いの成長や、都市と農村との交流、地域の活性化等の促進を

図るために、平成三年度から山村留学（東京都町田市との交流）、通称「東沢やんちゃ留学」を行っていただきます。

現代林業で山村留学を知った齋藤さんは、地元小学校の校長先生等に提案する等、発足当初から関わりをもつてこられました。その準備段階では、親交のある林業士の鈴木富太郎さんを訪ね、先進地である大江町七軒地区のやり方を教わりました。

また、米沢市在住の林業士の黒田明雄さんの指導の元、東沢地区（東沢小学校敷地内）に炭窯を造り、山村留学の夏の行事として、白炭作りや、その炭を使ったバーベキューを行い、大好評を得ました。齊藤さんは、初代山村留学の里親でもあり、今でも当時の長期留学（一年間）生と交流を深めています。（短期留学は約五日間）

今後の抱負をお聞きしたところ、若き林業士の推薦・育成等の必要性を熱く語られ、まさに人材育成、林業振興、そして地域振興へとつながるような話をしていただきました。

これから、川西町だけでなく、置賜地域の森林・林業の中心となり、林業振興及び地域の活性化に結び付く活躍を期待しております。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

## 森の人紹介

### 共存共栄で地域の山を守る

有限会社 遠田林産

会長 遠田 勝一さん



遠田さんは、酒田市の旧八幡町で素材生産業を営んでおりますが、そのいきさつは学校卒業後、家業の炭焼きの手に始まりです。

燃料が石油に替り、炭焼きでは食べていけなくなったため、二年後に木の伐採、集材を手掛ける会社勤務しました。ブナの需要が最盛期の頃で、毎日、ブナを伐つてワイヤーで運ぶ仕事でした。その会社を五年ほど勤めてから、地元の仲間と素材生産の会社を立ち上げました。

始めは仕事の無い冬場に出稼ぎをしながら行っていました。四十歳から法人組織を立ち上げることになりました。従業員の結婚をきっかけに、従業員の奥様や御両親の生活を考えると福利厚生充実が必要であるとの切実な思いからです。

近年は間伐に関する事業の増加も

あり、今では従業員が三十名ほど、林業機械も十六台ほどを所有する規模の会社となりました。会長自身も「そこまで大きくなるとは思っていません」と語りましたが、それまでは紆余曲折もあつたと言います。よく会長は「われわれの商売は博打のようなものだ」と話します。立木を買うときは所有者に先に代金を支払い、それから山に入り伐採します。木材の相場次第でかなりの損失にもなるため、常に大きなリスクと隣り合わせですが、逆にそのことで山を見る目が養われたと言います。

かつては各地域に素材生産業者が存在していましたが、閉鎖した業者も数多くあります。そんな中で遠田林産が今まで生き残ったのは「仲間を支えられたから」であり、その経験から、お互い共存共栄で地域の山を守っていくことが大切だと強調します。今後は森林経営計画を作成し、さらに施業の集約化、計画的な間伐に努めていきたいとのこと。また、従業員をはじめ人材の育成にも力を入れていきます。会長の熱い思いが若い人たちにも広がり、地域の森林資源の有効活用が進むことを期待してやみません。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

# 大自然の恵み！大江町自慢の「山菜」を全国に発信 「2015全国山菜サミットin大江」の開催

五月二十四日～二十五日、「山菜の魅力発信と食文化」をテーマに、県内外の山菜ファンや関係者五百二十名が集い「第十回全国山菜サミット」が大江町内で盛大に開催されました。

## ◆全国山菜サミットとは

山菜の生産・消費拡大と山菜文化の普及・伝承等による山村の振興を図るため、全国山菜文化産業協会の会員等である市町村が主体となって開催し、今回が十回目となります。

県内では、第一回が小国町、第四回は西川町で開催されております。

## ◆開会式等

超満員となったメイン会場「大江町民ふれあい会館」では、オープニングアトラクションとして、左沢小学校五年生による「はやせ太鼓」と保存会による



「最上川舟唄」が披露された後、今井敏林野庁長官、吉村知事ほかを来賓に迎え、開会式が行われました。

## ◆記念講演



東京銀座の中華料理店「銀座アスター」の元総料理長で中華料理店「酒家華福寿」オーナーシェフの久保木武行氏から、

中華やイタリアンなど山菜の新しい料理の考案の可能性、産地の特徴、豊富な種類や旬を消費者への発信、下ごしらえの仕方や価格設定の方法の提示、ブランド化や差別化を図る必要性など、山菜に対する厚い想いを熱く語っていただきました。

## ◆山菜シンポジウム

講演に続いて、阿部清最上総合支



庁長がコーディネーターを務め、久保木氏をはじめ、町内外の生産、料理提供、流通販売などに関わる五名のパネラーによるパ

ネルデイスカッションが行われました。記念講演の内容をさらに掘り下げ、大江町自慢の「山菜」の魅力や食文化を町内はもちろん全国に発信していく方策などについて語り合いました。

## ◆全国山菜文化交流会



行事終了後、今春オープンした山里交流館「やまさあーべ」に移動して、旬の山菜フルコースと地酒を食しながらの交流

会が開催されました。百二十人を超える参加者は、地元女性たちによる手作り料理に舌鼓しながら、大いに盛り上がりました。終了後も、宿泊先である「奥おおえ柳川温泉」で、温泉に浸かりながら山菜談議に花を咲かせていました。

## ◆講話

二日目は、山里交流館での講話から始まり、「青苧（あおそ）復活夢見隊」代表の村上弘子さんから、大江町七軒地区に伝わる青苧の繊維利用の復活とともに、新たに食材としての活用への挑戦についてお話をいただきました。

## ◆餅つき体験等・昼食・閉会式



会場を小倉交流館に移し、青苧の餅つき体験、郷土資料展示室や加工所の見学、昼食に青苧餅の五種盛り合わせをいただいた後、

閉会となりました。

## ◆その他（オプションツアー）

サミットの前後には、大江町内の史跡や名所を巡る観光バスツアーが開催されたほか、町民ふれあい会館前では、山菜汁の振舞いをはじめ、山菜パスタ、山菜販売、体験コーナーなどが設けられ、晴天にも恵まれた中、山菜はもちろん大江町の魅力を満喫する二日間となりました。

## ◆今後の取組み

県では町の関係者とともに、山形の豊かな森林資源を活用する「やまがた森林ノミクス」の取組みの一つとして、幅広い年代に好まれる新メニューや新商品の開発、宿泊体験型観光モデル化など、森の恵み「山菜」を活用した地域活性化に引き続き取り組んでまいります。

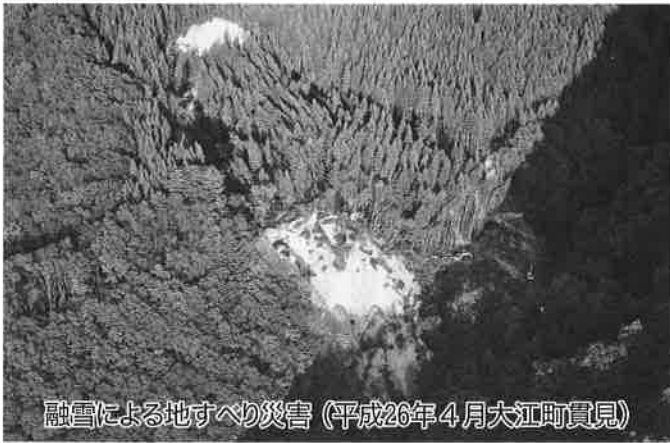
〔村山総合支庁森林整備課〕

# 山地災害の発生状況及び今後に向けて

## ◆はじめに

近年、異常な豪雨により全国各地で山地災害が多数発生しており、本県においても平成二十五、二十六年と二年連続して甚大な被害が発生しております。被害は二年とも、融雪期の四月及び梅雨期の七月に集中しており、今年もこれから警戒が必要な時期を迎えます。

ここでは、昨年度に発生した山地災害の状況や、今後に向けて知っておくべきことなどを紹介します。



融雪による地すべり災害 (平成26年4月大江町貫見)

## ◆平成二十六年融雪災害

四月に大江町貫見地内で地すべりが発生し、崩落した土砂や倒木が沢を塞ぎ、ダムアップしました。

一級河川月布川への土砂流出防止のため、災害関連緊急地すべり防止事業（決定事業費約一億六千万円）の採択を受け、早期復旧に向け現在護岸工などの対策工を実施中です。



豪雨による溪岸崩壊 (平成26年7月南陽市漆山)

## ◆平成二十六年豪雨災害

七月の激しい豪雨により、南陽市の吉野川及び織機川沿いを中心に甚大な被害が発生し、道路や鉄道、家屋への被害も相次ぎました。

上流部には大量の不安定土砂や倒木があるため、災害関連緊急治山事業（四箇所・決定事業費計約二億七千万円）の採択を受け、早期復旧に向け現在治山ダム工などの対策工を実施中です。

## ◆山地災害の危険信号

皆さんもすでにご存知かと思いますが、もう一度、改めて山地災害の危険信号を確認してみましょう。

山地災害が起こる多くの場合、山の斜面や川の濁り具合などをよく観察してみると、事前に危険信号と思われる変化が見受けられます。

☐川が濁り、木の枝などが混ざりはじめた。

・上流で山崩れが発生？

☐雨が降り続けているのに川の水位が下がった。

・山崩れにより川をせき止め、氾濫の危険あり？

☐山の木が傾いたり斜面に亀裂が走った。

・地すべりや山崩れの前兆？

☐普段澄んでいる沢や井戸の水が濁ってきた。

・沢の上流で山崩れが発生？

などの危険信号があります。中でも川の濁りなどは比較的容易に見ることが出来ますので、注意して観察してみてくださいでしょうか。

※山地災害防止PR用パンフレット引用（一般社団法人日本治山治水協会発行）

## ◆おわりに

今年の春先は例年に比べ気温が高く、一気に融雪が進み、大規模な雪崩や地すべり災害が発生しました。

さらに、梅雨時期には二年続けて豪雨災害が発生しており、今年も山地災害の発生が危惧されるところです。

みなさんも万が一、山地災害の危険信号に気づいたときには、危険な場所には近づかず、早めに指定された所に避難しましょう。

災害はいつ起こるかわかりません。お住まいの地域の危険箇所や避難場所は、あらかじめ自分の目で確認しておきましょう。〔県林業振興課〕

## 特用林産物の供給向上を目指して

# 「おきたま森の起業塾」やっています！

### ◆はじめに

置賜地域は、山形県内でも、きのこ・山菜・木炭等の有数の産地となつていますが、消費者からのニーズがあつても生産者の高齢化や減少により、安定した生産量を確保・供給できない状況になってきています。

しかし、一方では、新たな栽培方法・生産技術の開発によって、わらびの早期成園化や栽培きのこの生産性の向上が図れるようになってきました。

置賜総合支庁では、新規参入者の育成・確保と、生産者組織の立ち上げ・強化等を図るために既存の生産者等との連携を図り、「おきたま森の恵み起業塾」の取組みを平成二十五年度から進めていますので、その内容について紹介します。

### ◆事業の概要

「おきたま森の恵み起業塾」は平成二十五年度から二十八年度までの四年間の研修受講等により、就業や経営者として自立できる生産者の育成を目指しています。



きのこの加工・流通販売の研修状況

研修の内容は大きく「きのこ」・「山菜」・「木炭」等の分野に区分しています。

### ◆研修の状況

平成二十五年度は、前述の三つの分野において、各分野の先駆的実践者や専門家等を講師として、基礎的な知識・技術の習得をするため、現地研修等も組み込んだ技術講座等を開催しました。

平成二十六年度は「きのこ」・「山菜」の二分野について生産・流通販売・加工を行っている事業者の協力を得て、より専門的な栽培技術・流通販売などの研修をいたしました。

### ・「きのこ研修会」

「(株)やまと林産」、「(有)後藤農場」の方を講師に迎え、それぞれの会社における栽培・加工・販売方法などの説明と指導をしてもらいました。

研修参加者は事業体によって違う、菌床しいたけの生産体制・栽培管理・加工方法や卸先などについて熱心に意見交換を行っていました。

### ・「山菜研修会」

林業士で地域特産物マイスターの舟山勇氏、小国町森林組合参事井上一美氏、(株)ヤマザワバイヤー伊藤雅治氏を講師に迎え、舟山氏には栽培方法、井上氏には加工販売、伊藤氏には流通の仕組みについて指導していただきました。

特に長年山菜栽培に携わってきた舟山氏からは、自らの経験を踏まえた指導や解説・助言をしていただきました。

研修の参加者の中には、山菜を生産・流通販売するためのノウハウの取得だけでなく、新たな生産・雇用確保に結び付けようと考えている方

もみられました。

また、「きのこ」・「山菜」どちらの研修参加者からも「生産・栽培技術だけでなく流通販売方法について受講できたのが良かった」との意見をいただきました。



山菜栽培・加工・流通販売の研修状況

平成二十七年度は「きのこ」・「山菜」・「木炭」の三分野について平成二十六年度と同様に専門的な生産・栽培技術・流通販売などの研修等を実施する予定です。

### ◆おわりに

「おきたま森の恵み起業塾」への参加をきっかけに、特用林産物の生産販売にたずさわる方が一人でも多く増えていくことを期待しています。

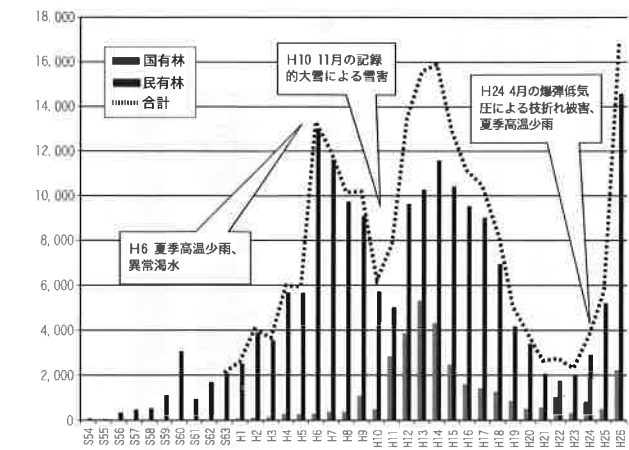
〔置賜総合支庁森林整備課〕

# 庄内地域の松くい虫の被害状況について 多様な主体の連携による松くい虫被害対策

## はじめに

昭和五十四年に庄内地域で初めて発見された松くい虫の被害は、平成十四年度をピークに、被害対策の効果により減少傾向にありましたが、平成二十三年度から再び増加傾向となり、平成二十六年には庄内の民有林で過去最大の約一万五千㎡の被害量となりました。急速に被害量が増加した原因は、平成二十四年春の爆弾低気圧や冬の豪雪、夏の高温小雨などにより松がダメージを受けたことによると考えられています。

庄内地域の松くい虫被害量の推移



遊佐町の松くい虫被害の状況 (←が被害木)

## 庄内地域の被害状況

平成二十六年年度の庄内地域の松くい虫被害は、市町別では鶴岡市で前年の二倍の約九百㎡、酒田市で前年の二・五倍の約五千六百㎡、遊佐町で最も被害が大きく、前年の三倍の約八千㎡となり、庄内全体では前年の二・八倍の被害になりました。これを受けて、昨年十二月には「庄内地方森林病害虫被害対策検討会」を開催し、国、県、市町、森林組合等が連携して対策を検討しました。また、春季防除事業が始まった今

年四月には担当者会議を行ない、各事業間で調整した上で被害対策に取り組んでいます。

## 被害対策強化の取組み

(一) 研修会の開催  
松くい虫被害対策強化の取組みとして、松枯れのメカニズムと防除対策について正しい知識を身につけるために、ボランティアリーダー研修と森林病害虫研修会を兼ねた「松枯れのしくみと防除について」研修会を五月二十九日に開催しました。

行政、森林組合、林業事業者、森林ボランティア団体や大学生等、松くい虫被害対策に関わる幅広い関係者が研修会に参加しました。室内研修では、薬剤メーカーの方



実際の被害木を使った松くい研修会

(二) プロジェクト会議の開催  
被害対策強化の取組みの二つ目として、「庄内海岸林松くい虫被害対策強化プロジェクト会議」を六月五日に開催しました。遊佐町長が議長となり、これまでの被害対策検討会のメンバーである国、県、市町、森林組合に、研究機関、森林ボランティアを加えて、関係者が一堂に会し、庄内海岸林の効果的な防除対策を円滑に実施するため、関係機関相互の情報共有、防除対策の検討等を行いました。

## おわりに

庄内総合支庁では地域住民の生活に不可欠な「守るべきマツ林」を保全するため、今後も多様な主体が連携して松くい虫被害対策に取り組まします。〔庄内総合支庁森林整備課〕





湯野沢熊野神社は承元（一二〇七）年、紀伊国熊野本宮より熊野大神を分霊して創建された神社といわれています。昭和二十五年に本殿と拝殿が国指定登録有形文化財に指定されています。

境内には幾本ものスギの太木があり、これまで、三本が市の天然記念物に指定されました。昭和三十四年十一月五日指定、根周八・五五m、幹周七・四m、樹高三五m（頂部欠損）、樹齢約八百五十年。平成二年一月二十五日指定、根周七・六m、幹周五・九m、樹高四二m、樹齢約七百年、根周六・二m、幹周四・二五m、樹高四五m、樹齢約六百年。〔山形県森林協会〕



（案内略図）



## 外観



完成年度 平成24年度  
 延床面積 143㎡・124㎡  
 構造 木造平屋建て  
 特徴 町内の小学校の統合によるスクールバスの購入に伴い、車庫2棟の建築を木造で行った。

1棟に2台のスペースを確保するとともに、使用木材の8割程度を県産材とし、1棟には運転手の事務室も配置している。

## 公共木造施設 87

### スクールバス車庫 最上郡舟形町舟形



内部

# みどりの財産を次世代に引継ぐために

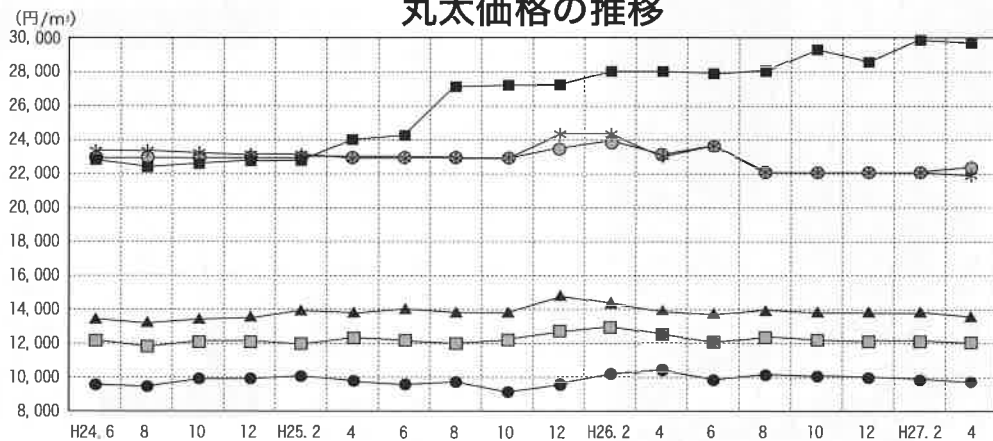
公益財団法人 山形県林業公社 理事長 細野 武司

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265番

TEL 023-666-6348 FAX 023-689-9348 E-mail : y-ringyo@atlas.plala.or.jp

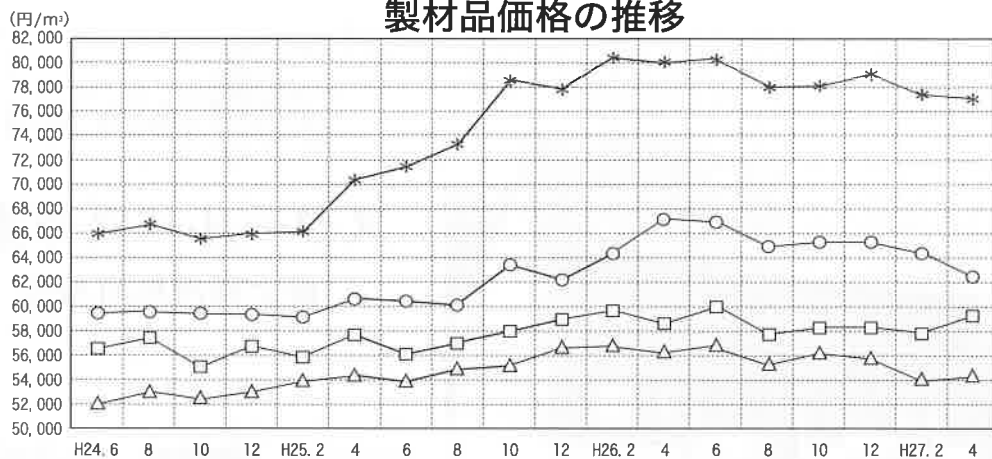
ホームページ : <http://business3.plala.or.jp/y-rkousy/>

### 丸太価格の推移



- スギ小丸太
- スギ中丸太
- ▲ スギ大丸太
- 米マツ大丸太
- \* 北洋アカマツ中
- 北洋カラ中丸太

### 製材品価格の推移



- スギ正角(柱)
- △ スギ正角(母屋)
- スギ正割
- \* 米マツ平角

## 土砂災害を防止・軽減するには「治山施設」が必要です 森林を整備・利活用するには「林道施設」が必要です

会長 東南村山支部長 堀川 隆志 羽陽建設(株)・理事 西村山支部長 後藤吉比己 後藤建設(株)  
 副会長 新庄支部長 永井 敏行 永井建設(株)・理事 庄内支部長 五十嵐久廣 鶴岡建設(株)  
 副会長 北村山支部長 小野 勉 小野建設(株)・監事 東南村山支部 荒井 孝直 (株)山形組  
 理事 置賜支部長 那須 正 那須建設(株)・監事 西村山支部 佐藤 欣司 大東建設(株)

山形県森林土木建設業協会 ◇事務所: 山形市あさひ町16-21

TEL(023)632-3893 FAX(023)632-5454 E-mail : info@y-sinrin.jp